

# 2018年度 ANNUAL REPORT

---



公益社団法人日本フィランソロピー協会

# 目次

2018年度アニュアルレポート発行にあたって	3
はじめに	4
<b>出版事業</b>	
機関誌「フィランソロピー」	6
出版物／冊子	7
<b>研修事業</b>	
定例セミナー	8
フィランソロピーセミナー	9
Stone Soup Club	9
経営者向け「エグゼクティブセミナー」	9
<b>顕彰事業</b>	
企業フィランソロピー大賞	10
<b>企業のCSR支援事業</b>	
従業員ボランティア推進プログラム	11
寄付推進プログラム（フィランソロピーバンク）	14
物品寄贈「あげます・もらいます」事業	16
助成事業	16
次世代育成	16
社員研修支援	16
環境保全	16
高齢者支援	17
サイト構築支援	17
NPOのリーダー育成	17
海外支援	18
東日本大震災の被災地支援	18
<b>次世代育成事業</b>	
チャリティーチャレンジ・プログラム	19
チャリティー・リレーマラソン	20
“子どもの『貧・困』” 伴走者育成研修	21
<b>共生社会づくり推進事業</b>	
フィランソロピー名刺	22
寄付川柳	23
誕生日寄付	24
職員紹介	25
<b>資料編</b>	
機関誌	26
定例セミナー	27
寄付推進プログラム（NPOへの支援）	28
財務データ／会員数／役員	30

## 2018年度アニュアルレポート発行にあたって

公益社団法人日本フィランソロピー協会は、「健全な民主主義社会の創出」をミッションとし「企業フィランソロピー」を核に従業員はじめ個人の社会参加の推進をめざしています。

2018年度の活動報告と今後の展望について、アニュアルレポートをお届けします。

### SDG sの実質的推進のための事業を展開

2015年9月の「国連持続可能な開発サミット」において採択されたSDGs（持続可能な開発目標、Sustainable Development Goals）は、2030年までには「誰ひとり取り残さない社会をめざす」という目標を掲げ、社会のあらゆるセクターで、それぞれの独自性を活かしながら、17の課題を軸に、課題解決に向けた取り組みが求められています。しかしながら、Transformation（前例にとらわれず新たに作り変えること）はそう簡単ではなく、具体的にどう実現していくかに腐心しておられます。そこで、企業においても、担当者向けのCSR基礎講座や経営者向けのセミナーを開催し、企業全体で共有することを目指しております。そこでは、CSRの全体像を把握し、SDGsの本質と、自社の方向性を考える機会となり、共に参加した企業同士の貴重な意見交換や交流の場にもしていただきました。さらに、従業員の社会参加の重要性も認識され、当協会のボランティアマッチングへのお問い合わせ、参加が増えています。SDGs推進には、異文化理解・多様性理解などの視点が不可欠であり、人材育成はその要です。従って、2019年度は、各セミナーも、「人材育成」の視点からの企画を進める予定です。各企業のトップダウン・ボトムアップがうまくつながり、全社の取り組みになるよう、当協会も尽力してまいります。

### 個人としての参加の機会を作る

2016年度から進めている「子どもの『貧・困』問題」解決への”伴走者”育成事業は、2018年度も、座学に加え、子ども食堂をはじめとした複数の現場を視察・体験し、子どもたちの現実やサポートする人たちの声を知ることで、「課題解決に応えるために何が必要か、何ができるか」という視点を考える機会としました。SDGsの理念である「誰も取り残さない社会」づくりの具体化を肌で感じる体験をしていただきました。また、2018年度より苦境に立つ子どもたちを支えるために、「誕生日寄付」推進事業を始めました。いのちを与えられたことに感謝して、自分の誕生日に、今、困難に直面している子どもたち・若者たちを支援する団体への寄付をする仕組みです。さらに、企業など法人の創立記念日（誕生日）の事業としても利用いただいています。誕生日寄付を通して、未来を創る子どもたちを支える「カッコいい大人」の輪を広げていきたいと思っています。

企業フィランソロピーにおける従業員などの社会参加推進に加え、今後は、個人に直接働きかける事業も進めてまいります。誰もが参加できる社会貢献活動を推進するためのコーディネーターとしての役割をさらに心がけたいと思っております。

ご支援・ご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2019年7月

公益社団法人日本フィランソロピー協会  
理事長 高橋 陽子

## これまでのあゆみ

- 1960年 第一次安保闘争を機に、民主的社會を実現するためには、公正な世論を形成することが重要との考えから、ジャーナリスト・学者などの有識者を中心に、不偏不党の立場で自由闊達な議論をする場を提供する、「国民政治研究会」として勉強会を開始
- 1962年 内閣総理大臣より公益法人としての認可を受ける。
- 1990年 **フィランソロピー元年**  
★バブル経済へ続く1980年代後半には、欧米に進出した企業が現地企業の社会貢献活動に触発されるなか、企業フィランソロピーやメセナ等、企業の社会貢献活動が盛んになり、1990年には経済団体連合会の「1%クラブ」や「企業メセナ協議会」が発足、「フィランソロピー元年」と呼ばれた。
- 1991年「企業市民室」創設、企業フィランソロピー推進事業を開始**  
フィランソロピーを民主主義の原点と据え、企業フィランソロピーを通じて、個人の社会参加推進につなげることを事業の柱として新たに出発。企業の担当者向けセミナーを開始。
- 1992年 「月刊フィランソロピー」（現 機関誌「フィランソロピー」）創刊
- 1994年「日本フィランソロピー協会」に改称**
- 1995年 **阪神・淡路大震災発災・ボランティア元年**  
★阪神・淡路大震災で、数多くのボランティアがその救済や復興のために活躍。特に、社会人や学生がボランティアとして参加し、行政よりも柔軟に対応、「ボランティア元年」と呼ばれた。  
神戸市長田区室内小学校の避難所の運営
- 1998年 知的障害者のアートと暮らしをテーマにした記録映画「まひるのほし」制作。「まちかどのフィランソロピスト賞」創設
- 2000年 視覚障がい者、高齢者などへの音訳サービス「声の花束」開始
- 2003年 **CSR元年**  
★ナイキの児童労働問題、エンロン事件を象徴として、コーポレートガバナンス時代に入った。多くの企業で、CSR担当部署が整備された。  
「企業フィランソロピー大賞」創設  
「フィランソロピー名刺」開始
- 2005年 「まちかどのフィランソロピスト賞」に青少年部門創設
- 2007年 「フィランソロピーバンク」創設  
文化庁主催「アート展・障がいのある人による作品たち」開催
- 2009年 新公益法人制度の下、公益社団法人として認定**  
「アメリカン・エクスプレス・リーダーシップ・アカデミー」開始
- 2010年 会員企業を中心とした勉強会「Stone Soup Club」発足  
**国際標準化機構がISO26000制定**
- 2011年 **東日本大震災発災**  
「寄付育（現 チャリティーチャレンジ・プログラム）」開始  
「復興応援 キリン絆プロジェクト」開始  
「復興応援 チャリティー・リレーマラソン」開始
- 2013年 「フィランソロピーセミナー」開始
- 2014年 「サントリー東北サンさんプロジェクト チャレンジド・スポーツ支援事業」開始
- 2015年 **国連が「持続可能な開発目標（SDGs）」制定**  
企業ボランティアとNPOとのマッチングサイトとしての「ボランティアウェブ」開始
- 2016年 「子どもの貧困を考える勉強会」開始  
「寄付川柳」開始
- 2019年 「誕生日寄付」開始

## 私たちが

## フィランソロピー活動の原点と考えるものとは

当協会では、“企業フィランソロピー”を中心に活動していますが、“個人フィランソロピー”を、健全な民主主義を創出するための原点と考えています。

そのため、企業のステークホルダーである一人ひとりの個人が、「より良い社会創造のために自ら考え、課題解決に向けて行動する」ことを推奨しています。

### フィランソロピーとは

ギリシア語の「フィリア（愛）」と「アンソロポス（人類）」に由来する言葉で、「人類愛」「博愛」を意味し、今日的には「社会貢献」と訳されることが多いようです。また、フィランソロピーは、社会貢献活動を通して、社会の課題解決を図る、ということまでを包含する概念です。

企業はじめ、さまざまな法人が担うフィランソロピー活動も広がっています。

## 「健全な民主主義社会」の実現

障がいの有無・性別・年齢などに関係なく全ての人々が、かけがえのない存在として尊重され、それぞれの役割を果たし、社会を構成する主体としての責任を果たす社会の実現

行政や企業セクターと協力しながらも独立した主体性を有する市民セクターを育て、バランスの取れた社会の実現

**Mission**  
(使命)

「健全な民主主義社会」  
の実現

**Goal**  
(ミッション実現のための目標)

①企業のCSR支援

②個人の社会貢献活動の推進

主に企業のステークホルダー  
～従業員・顧客・株主を中心に～

**Core Value**  
(大切にしている視点)

共生社会づくり

社会貢献を核とした  
企業のCSR支援

次世代育成

### 【主な活動】

寄付推進プログラム

従業員ボランティア推進プログラム

NPOリーダー育成プログラム  
(アメリカン・エクスプレス・  
リーダーシップ・アカデミー)

被災地支援

フィランソロピー名刺

寄付川柳

誕生日寄付

チャリティーチャレンジ・  
プログラム

チャリティー・リレーマラソン

子どもの貧困対策プロジェクト

出版事業

機関誌『フィランソロピー』

研修事業

定例セミナーなど

顕彰事業

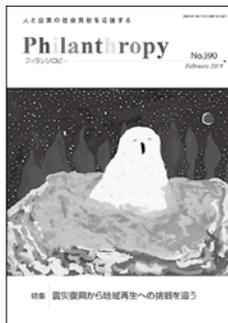
企業フィランソロピー大賞

# 出版事業

フィランソロピーを拡げるために、各種出版物や調査報告書などの発行を通して啓発活動に努めています。

2019年2月現在390号を数える機関誌「フィランソロピー」では、創刊以来、社会の課題を抽出し、特集として企画・編集。課題解決や新たな価値創造の実現に向けたさまざまな取り組み、企業フィランソロピー活動の先進事例や、個人・NPOの活動について紹介しています。

## 機関誌「フィランソロピー」(隔月発行)



### 【表紙について】

障がいのある方の作品を紹介することで、多様な才能を世の中に紹介したいと活動を続けています。目次ページで、作者のプロフィールや作品の背景なども掲載しています。

※フィランソロピー名刺に一部作品をご利用いただけます。(詳細は p.22)

2018年度	特集テーマ/巻頭インタビュー
4月号 (No.385)	<b>特集:</b> 次代の雇用を考える「就労弱者」が拓く可能性 <b>巻頭:</b> 「みんな違って、みんなしあわせに」 高木 俊介氏 (精神科医師)
6月号 (No.386)	<b>特集:</b> 他者への想いが自分を支える～「まちかどのフィランソロピスト賞」20年を振り返って～ <b>巻頭:</b> 「だれかのために、その想いが自分自身を強くする」 村木 厚子氏 (元厚生労働事務次官)
8月号 (No.387)	<b>特集:</b> 伝統を守る革新 <b>巻頭:</b> 「伝統を未来につなげる革新、新しい世界観をつくって共感を得る」 生駒 芳子氏 (ファッション・ジャーナリスト、アート・プロデューサー)
10月号 (No.388)	<b>特集:</b> 家族はみんな"わけあり"家族 <b>巻頭:</b> 「理性的な努力が人間関係を深め、家族をつくる」 山田 洋次氏 (映画監督・脚本家)
12月号 (No.389)	<b>特集:</b> 今、求められるスポーツマンシップは？ <b>巻頭:</b> 「自分のためではないから言いたいことが言える」 川淵 三郎氏 (公益財団法人日本サッカー協会 相談役)
2月号 (No.390)	<b>特集:</b> 震災復興から地域再生への挑戦を追う <b>巻頭:</b> 「ふるさととは"日本" マラソンイベントで東北と世界を笑顔でつなぐ」 竹川 隆司氏 (東北風土マラソン&フェスティバル 発起人会代表、副実行委員長)

(※ 2015年度から2017年度までの発行内容は、資料編 p.26 をご参照ください)

## 出版物 / 冊子

### 「企業の学校教育・青少年教育支援活動に関する調査」

急速な社会の変化のなか、学校教育の在り方や役割も転換期を迎えています。学校だけでなく、社会のすべてで教育を担い、学校と地域社会がともに学びあい、育ちあふ発想で教育を担っていくことが求められています。多様な人材のノウハウを学校教育に積極的に生かしていく、学校・企業連携に関心が高まっているなか、企業が実践する学校教育・青少年教育支援活動に関する調査を行ないました。その調査結果をまとめ、掲載許可を得たプログラムを紹介する報告書を作成しました。

- ・アンケート実施期間：2018年9月～11月
- ・アンケート方法：メールおよび郵送
- ・アンケート先：260社
- ・回答数：81社(31.2%)

※ご希望の方は、ホームページからお申込みください。(制作協力費1,000円)



### 子どもの『貧・困』 伴走者育成研修 テキスト (独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業)

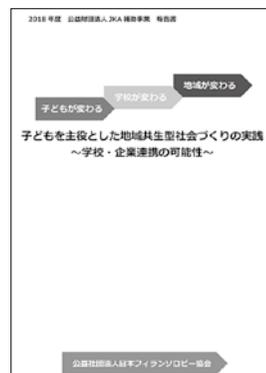
2016年度から”子どもの『貧・困』”という社会課題に対して行ってきた研修事業の集大成として、2018年度は「支援に動き出す人材を育成する」ことを目的とした研修を実施しました。第一線で活躍されている先生方に講師をお願いし、その講義内容をテキストにまとめました。今後の研修に利用すると同時に、子どもの『貧・困』に寄り添った活動をしている方に向けた参考書としても、利用していただくことを目的としています。経済的貧困だけでなく、いろいろな困難・困窮がある、という意味を込めて『貧・困』と表現しています。



### 子どもを主役とした地域共生型社会づくりの実践 ～学校・企業連携の可能性～ (公益財団法人JKA 助成事業)

子どもたちが地域の主役として活躍する環境を創るために、学校・企業・地域のセクターが、互いに協力し合う継続的な環境づくりが必要です。

当協会では、東北・東京・大阪・福岡の各エリアにおいて、子どもたちが核となる地域の社会貢献活動のサポートを行いました。その活動の報告、啓発の場として、東京・大阪・宮城県石巻市にてセミナーを開催。2019年3月には、それらの総括を行なう「合同報告会」を開催。各セミナーで実施された講演と合同報告会の内容をまとめ、報告書を作成しました。



# 研修事業

フィランソロピーについて考え学ぶ機会として、東京で開催している「定例セミナー」、関西などで開催している「フィランソロピーセミナー」、当協会の会員企業のCSR・社会貢献担当者を主な対象とした学びと協働の場「Stone Soup Club」、経営者向け「エグゼクティブセミナー」などを実施しています。

## 定例セミナー

1991年度にスタートした「定例セミナー」は、8月を除く毎月、企業のCSR・社会貢献担当者だけでなく、NPO職員やフィランソロピーに関心を持つ個人や学生を対象に、各分野の第一線で活躍する学術研究者や先進事例を有する企業担当者を講師に迎えて開催しています。フィランソロピーに関する理論や活動の現状を知り、問題意識を持ち、活動ノウハウを蓄積するだけでなく、講師や他の参加者とのネットワーキングの機会にもなっています。2018年度は13回開催、のべ592名が参加。

実施回(月)	テーマ
第342回(4月)	CSR基礎講座Ⅰ『SDGs時代の温故知新～CSRの原点を企業市民の視点から考える』 講師：松岡 紀雄 氏（神奈川大学名誉教授）
第343回(5月)	CSR基礎講座Ⅱ『SDGs時代の社会と企業～持続可能な社会づくりに求められる企業の視野と戦略』 講師：川北 秀人 氏（IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所] 代表）
第344回(6月)	CSR基礎講座Ⅲ『真にサステナブルな企業とは～ESG投資の視点も含めて』 講師：河口 真理子 氏（株式会社大和総研 主席研究員）
第345回(6月)	CSR基礎講座Ⅳ『ダイバーシティを組織の力に変えるには～多様性の中での相互理解』 講師：熊谷 晋一郎 氏（東京大学先端科学技術研究センター 准教授）
第346回(7月)	CSR基礎講座Ⅴ『CSRの最新トレンド～SDGsの国内・海外の動向を踏まえて』 講師：関 正雄 氏（損害保険ジャパン日本興亜株式会社 CSR室シニアアドバイザー）
第347回(7月)	『多様な人の社会参加と新しいテレワークを可能にするロボット』 講師：吉藤 健太郎 氏（株式会社オリィ研究所共同創設者/代表取締役 CEO）
第348回(9月)	『SDGs時代におけるCSRの対外コミュニケーション』 講師：宮田 千夏子 氏（ANAホールディングス株式会社 コーポレートコミュニケーション室 CSR推進部 部長） 内田 雄司 氏（大和ハウス工業株式会社 CSR部ソーシャルコミュニケーション室長） 塩田 裕子 氏（ESG推進部兼サステナビリティ部 ESG推進兼サステナビリティ担当課長）
第349回(10月)	『障がい者雇用の促進と定着』 講師：中林 良則 氏（株式会社キュービーあい 代表取締役社長） 木村 幸絵 氏（ソフトバンク株式会社 人事総務統括 CSR統括部 CSR部 CSR1 課長） 秦 政 氏（NPO法人 障がい者就業・雇用支援センター 理事長）
第350回(11月)	『サステナビリティ経営を会計から捉える ～「経済の時代」から「人間の時代」へ』 講師：國部 克彦 氏（神戸大学大学院経営学研究科 教授）
第351回(12月)	『「まひるのほし」映画鑑賞と対談～ボードレス・アートの20年』 対談：北岡 賢剛 氏（社会福祉法人グロー 理事長/ボードレス・アートミュージアム No-Ma 設立者） 小林 瑞恵 氏（社会福祉法人愛成会 副理事長・アートディレクター）
第352回(1月)	『外国人受け入れ新政策～日本の未来はどう変わるのか？』 講師：毛受 敏浩 氏（公益財団法人 日本国際交流センター 執行理事）
第353回(2月)	『CSR・社会貢献活動を「伝えるコツ」～参加意欲を高める訴求力強化ワークショップ』 講師：伊藤 公一 氏（株式会社電通九州 チーフクリエイティブオフィサー） 金子 花菜 氏（株式会社電通 総務局社会貢献部コミュニケーションデザイナー/「伝えるコツ」担当）
第354回(3月)	『社員の主体的参加がつくる次世代教育支援プログラム』 講師：川向 緑 氏（日本オラクル株式会社 コーポレートシチズンシップ） 中野 友華 氏（株式会社ファーストリテイリング サステナビリティ部 ビジネス・社会課題解決連動チーム）

## フィランソロピーセミナー

関西で開催するセミナーとして、大阪と滋賀で5回開催し、のべ109名の方が参加しました。

実施回 (月)	テーマ
第29回 6月	『障がい者スポーツを通じて実現する共生社会』【卓球バレーの体験付き】
第30回 9月	統合報告書から見る『CSRについての対外的コミュニケーション』
第31回 12月	『地域を支える次世代の育成～地域・企業・学校の連携を考える』(2018年度 JKA 補助事業)
第32回 3月	『サステナビリティ経営について考える』～会計学の観点から～
第33回 3月	『次世代につなぐまちづくりに必要な、企業、行政、地域住民の連携』

## Stone Soup Club

会員企業のCSR・社会貢献担当者を中心に、共に学び、議論し、協働型の社会貢献活動を企画・実施するフォーラムです。座学だけでなく、ワークショップや体験会・見学会などがあります。

### 【活動の紹介】

海外先進企業のCSR事例紹介として開催しました。

2018年10月は、「サーキュラーエコノミーの取り組み」で世界的にも有名な Philips 社が登壇。2019年3月、米 Fortune 誌の World's Most Admired Companies に継続的にランクインするアメリカン・エクスプレス社のCSRの取り組みについて紹介しました。

## 経営者向け「エグゼクティブセミナー」

企業をとりまく環境が激変する中、今後の企業経営はどうあるべきか。CSRの取り組みの進化や変化には、企業トップの理解と行動が不可欠であるという思いのもと、総合プロデューサーとして株式会社レスポンスアビリティの足立直樹氏の協力を得て、企業経営者向けセミナーを5回シリーズで開講しました。様々な業種・地域・規模の企業の役員にご参加いただき、深い議論を交わしました。



セミナーの様子

実施回 (月)	テーマ
第1回 (10月)	『SDGs時代のサステナブルビジネスを考える』 講師: 足立 直樹 氏 (株式会社レスポンスアビリティ 代表取締役)
第2回 (11月)	『2030年代を視野に入れた長期戦略～自社と社会の持続可能性を高めるためのバックカスティング～』 講師: 川北 秀人 氏 (IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所] 代表)
第3回 (12月)	『グローバルなESG投資市場からの視点』 講師: 水口 剛 氏 (高崎経済大学 教授)
第4回 (1月)	『予測不能な時代に求められるクリエイティビティとイノベーション』 講師: 土谷 貞雄 氏 (株式会社貞雄 代表)
第5回 (2月)	『しあわせな社会をいかに実現すべきか～幸福学からの提言～』 講師: 前野 隆司 氏 (慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 教授)

# 顕彰事業

2003年に創設した「企業フィランソロピー大賞」では、社会課題のために、自社の経営資源（人材・ノウハウ・技術・情報など）を有機的・持続的に活用した企業の社会貢献活動を顕彰しています。大小さまざまな企業のCSR経営のヒントにしていきたいと考えています。

そうした企業を広く社会に発信することにより、公正で温もりと活力ある社会を次世代に伝える一助としたいと考えています。

## 企業フィランソロピー大賞

第16回企業フィランソロピー大賞は以下の通り決定し、2019年2月28日、東京都千代田区のプレスセンターホールにて贈呈式を開催しました。



プレスセンターで行われた贈呈式



開会挨拶

### 企業フィランソロピー大賞

活動の名称：多様な子どもたちの架け橋プロジェクト  
Building Bridges for Children (BBC)

受賞企業：UBSグループ（東京都）

UBS 証券株式会社、UBS 銀行東京支店、  
UBS アセット・マネジメント株式会社、  
UBS ジャパン・アドバイザーズ株式会社



### 選考委員長特別賞

「海外難民視力支援ミッション」株式会社富士メガネ（札幌市）

### 企業フィランソロピー賞

- 【幸福への轍賞】 「さくら車いすプロジェクト」有限会社さいとう工房（東京都）
- 【輝く笑顔とともに賞】 難病「色素性乾皮症（XP）」の子どもたちへのサポート活動 株式会社資生堂（東京都）
- 【いのちの伝道師賞】 「防災ジャパンダブルプロジェクト」損害保険ジャパン日本興亜株式会社（東京都）
- 【未来を拓く AKARI 賞】 無電化地域へ「未来を拓く“POWER”を届ける」活動 パナソニック株式会社（大阪府）
- 【地域共創賞】 特別支援学校での「金融教室」（出前講座）株式会社みなと銀行（神戸市）

- |      |     |          |                     |
|------|-----|----------|---------------------|
| 選考委員 | 委員長 | 武田 晴人 氏  | （東京大学 名誉教授）         |
|      | 委員  | 井出 明子 氏  | （日本電信電話株式会社 常勤監査役）  |
|      | 委員  | 佐藤 雄二郎 氏 | （株式会社共同通信社 代表取締役社長） |
|      | 委員  | 渋澤 健 氏   | （コモンズ投信株式会社 取締役会長）  |

# 企業の CSR 支援事業

CSR 支援事業では、企業の社会貢献活動の実施支援を行っています。社会貢献プログラムの企画立案や事務局、従業員ボランティアプログラムの活動先とのマッチング、寄付や助成プログラムにおける NPO などの支援先の調査選定を行っています。

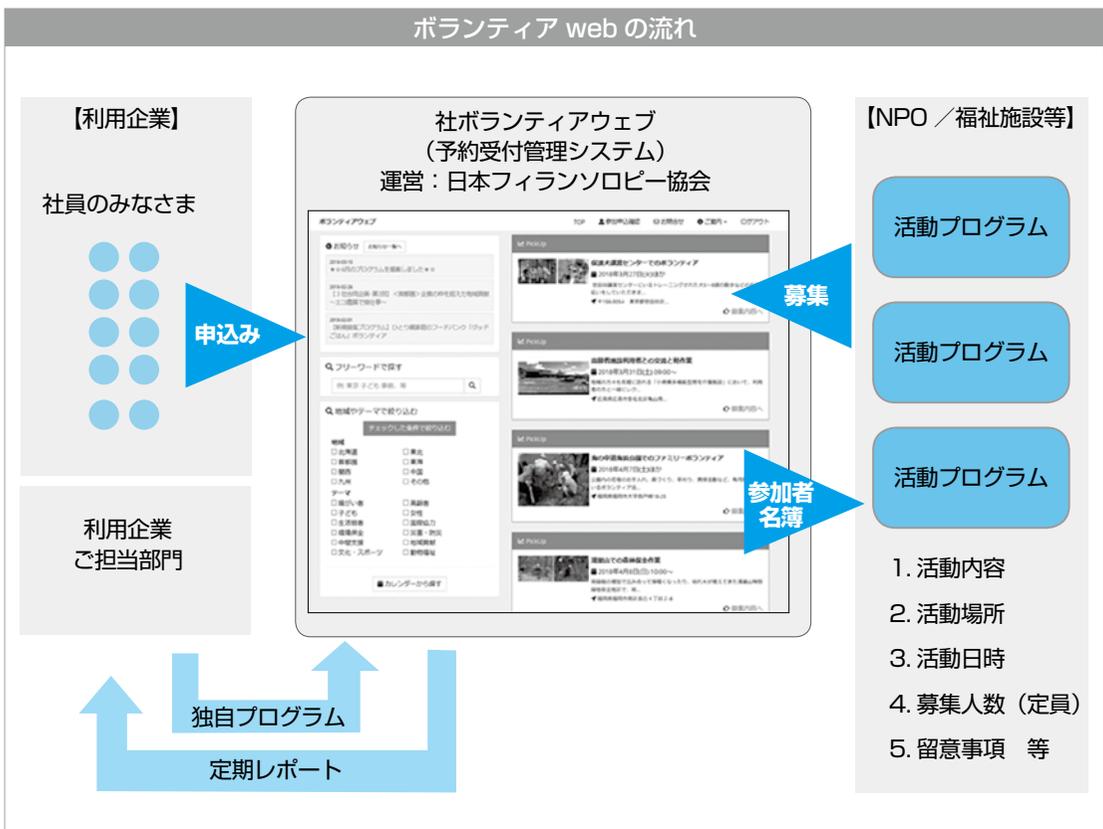
企業、および、従業員など個人のフィランソロピー文化の醸成と、支援先との顔の見える関係づくりを心がけています。

## 従業員ボランティア推進プログラム

企業の従業員の社会参加促進のため、会員企業をはじめとする企業の従業員ボランティアのプログラム企画開発や、受け入れ団体の紹介および調整、事前・事後研修、運営協力等を行っています。

### (1) 当協会独自のボランティアマッチングサイト (ボランティアウェブ)

他社の従業員との協働の機会の提供を目的に、様々なボランティア募集の情報を、ウェブサイト上で提供しています。利用企業の従業員の方々は、ウェブサイトから全国の主要都市で実施される様々な分野のボランティアプログラムを選び、直接、参加申し込みができます。複数企業の参加があり、他社の従業員とのコミュニケーションの機会にもなっています。



## ■ 株式会社 NTT ドコモ

2016年4月よりご利用。就業時間外のプログラムを中心に参加しています。

## ■ サントリーホールディングス株式会社

2017年3月より、「働き方改革」の一環でご利用。会社のオリジナルプログラムの募集にも「ボランティアウェブ」のシステムを活用しています。

## ■ 株式会社ジェーシービー

地域のNPO・福祉施設などが提供するボランティアプログラムのほか、社内プログラムや持ち帰りプログラムなど、同社が実施する「JCB 社会貢献プログラム」全体の参加受付管理を「ボランティアウェブ」を通して行なっています。

## ■ 日本ロレアル株式会社

全世界のロレアルグループが参加するボランティア強化月間に「ボランティアウェブ」をご利用。通常のプログラムに加え、同社社員のみが参加するプログラムを期間限定で設定し、2018年度は合計60種、740名分のプログラムを募集。536名が活動に参加しました。

## ■ 日本たばこ産業株式会社

2019年3月よりご利用を開始しました。

### 【ボランティアウェブ利用企業からの声】

日本たばこ産業株式会社 サステナビリティマネジメント部



左から中根聡子さんと土屋希介さん

次長 土屋 希介様  
課長 中根 聡子様

JTグループでは、従業員一人ひとりが、責任ある地域コミュニティの一員として、地域が抱える様々な社会課題の解決に向け、自発的に行動することを奨励しています。

包摂的かつ持続可能な地域社会の発展を目指し2015年から2030年の間に、6億USDの投資を行い、従業員が30万時間のボランティア活動に従事することを目指しています。

ボランティアウェブは重要な施策のひとつで、今後はもっと社内広報活動に力を入れていきたいと考えています。

### 無料お試し期間の実施

ボランティアウェブの利用促進を目的として、2018年10月～2019年3月に、無料お試し期間を設定しました。それに先立ち開催された説明会には17社22名が参加し、下記7社がそれぞれ2か月ずつ利用されました。

**実施企業：**花王株式会社、住友商事株式会社、大鵬薬品工業株式会社、株式会社電通、株式会社東芝、パナソニック株式会社、三菱自動車工業株式会社  
お試しの結果、株式会社電通の2019年度からのご利用が決まりました。

## (2) 個別企業向けコーディネート

### ■ アクセンチュア株式会社

毎月実施される新入社員研修の一環として、また年間を通して部門毎に不定期に実施される社内プログラムの企画運営をサポート。2018年度は、新規企画として在日難民の課題を考えるワークショップや、熊本地震の被災者支援を考える機会を設けました。

### ■ MSD 株式会社

新入社員研修の一環として、ボランティアプログラムをコーディネート。病気のお子さんとその家族が滞在する施設の清掃活動を実施しました。

### ■ 株式会社オリентコーポレーション

新入社員研修の半年後のフォローアップ研修の一環として、社内プログラムをコーディネート。水害支援活動に役立つ雑巾づくりを実施しました。

### ■ 株式会社かんぼ生命保険

社内プログラムをコーディネート。日本の森林保全のため、間伐材を活用したおもちゃを作成、子ども支援施設へ寄贈しました。

### ■ 新日鉄住金エンジニアリング株式会社

社内プログラムをコーディネート。病気のお子さんとその家族へのプレゼント制作、間伐材を活用したおもちゃを制作するプログラムを実施しました。

### ■ 積水化学工業株式会社

全国にある工場や子会社などでの社内プログラムの企画・運営をサポート。環境保全や国際協力につながるプログラムを実施しました。

### ■ 大日本印刷株式会社

宮城県石巻市と熊本県阿蘇市への社員向け被災地ボランティアツアーを企画・運営。石巻市内では海岸整備や復興住宅の清掃、阿蘇市では被災農家の農作業支援などを実施しました。

### ■ プルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル生命保険株式会社

年間を通じ、部署ごとに希望するボランティアプログラムをコーディネート。社内の手話講習会や、高齢者施設での納涼祭の手伝いを実施しました。

### ■ リシュモンジャパン株式会社

社員やその家族が参加できる屋外ボランティアプログラムをコーディネート。江の島でのビーチクリーン活動を実施しました。

### ■ 株式会社レオパレス21

社内プログラムをコーディネート。発展途上国の子どもたちのへの教育支援活動を行ないました。



布チョコキンより

### ■ 株式会社三菱 UFJ 銀行

2019年度からの「ボランティアウェブ」開始に先駆け、ボランティアウェブで活動を提供している団体を講師とした社内プログラムを東京と大阪で実施しました。

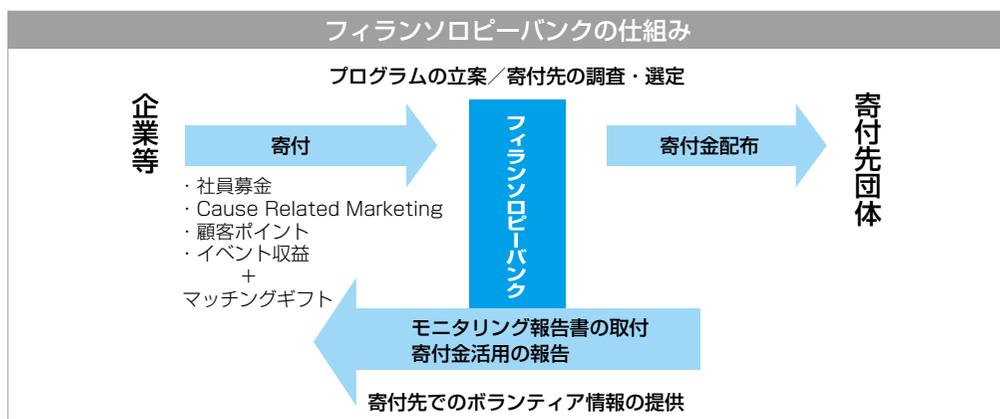
## 寄付推進プログラム（フィランソロピーバンク）

企業や個人の寄付を NPO 等の非営利団体につなげたり、個人への奨学金として給付しています。

### （１）非営利団体への寄付

2018 年度には、10 社、1 個人がフィランソロピーバンクを利用し、のべ 135 の非営利団体に総額 137,286,204 円の寄付をつなぎました。

※寄付先のリストについては、資料編 p.28～29 をご参照ください。



#### フィランソロピーバンクのプロセス

##### 1. 寄付プログラムの立案

寄付元企業・個人の目的・寄付テーマに沿った効果的なプログラムを立案する

##### 2. 寄付先の選定

寄付プログラムの趣旨に合った活動を実施できる寄付先団体を調査・選定する

##### 3. 寄付金の配付

寄付先団体に対し寄付金の振込や領収書の取付を行ない、寄付活用に関する留意点等について説明する

##### 4. 寄付金の適切な活用のモニタリング

寄付先団体において、計画された活動に寄付金が適切に活用されているかを確認する

##### 5. 寄付金活用の結果のフィードバック

寄付先団体が寄付を活用した活動の成果等を寄付者に報告する

#### 【フィランソロピーバンクご利用企業の声】

株式会社かんぼ生命保険 広報部 部長 島田 文晴 様

弊社では、環境保全への貢献のための寄付プログラムを 2015 年度より実施しており、フィランソロピーバンクを通じて、全国の NPO 団体へ寄付を行っています。

各団体の活動状況をふまえた候補先の選定、専門家を交えた審査会での議論により、本当に支援の必要な団体へ寄付を届けられるとともに、弊社が企業として何が出来るのか助言をいただけるため、毎年お願いしています。



2018 年度フィランソロピーバンク活用実績 (NPO への寄付、50 音順)

社名	内容
アメリカン・エクスプレス・ インターナショナル・インコーポレイテッド	熊本地震の被災者支援のため、ギフトカードの売上げに応じた寄付を実施。
株式会社 NTT データ	社内で実施したバレンタイン・チャリティープログラムの収益を、3 団体に寄付。
株式会社かんぽ生命保険	保険商品でウェブ約款を選択した顧客数に応じ寄付金を拠出するプログラムで、環境分野の NPO 33 団体に寄付金を配布。
株式会社ジェーシービー	被災地支援の取組みとして実施。2018 年度 (第 8 回) は、東日本大震災と 7 月豪雨災害の支援として 22 団体を選定し、寄付金を配布。
Fidelity International Foundation	NPO の基盤整備を目的とし、寄付金を配布。
株式会社三井住友銀行	社員による寄付プログラムで、コミュニティ・次世代・環境の分野で活動する 18 団体、および社員がボランティアをしている 11 団体に寄付金を配布。
株式会社ファンケル	顧客のポイントを金額換算したものと、社員からの寄付を合算し、東日本大震災被災者支援団体と、全国 10 ヶ所の重度心身障がい者施設に寄付を実施。
明治安田生命保険相互会社	チャリティー・コンサートの会場で集めた募金を、東北 3 県で「次世代育成」の分野で活動する 6 団体に寄付。  社会貢献活動基金を通じて、児童支援、被災地支援、障がい者・高齢者支援、環境保全および LGBT 支援を行う団体から 8 団体を選考し寄付。
東京海上日動あんしん生命保険株式会社	社員の給与天引き、代理店でのグッズ販売の一部を難病患児支援団体、認知症啓発団体に寄付。寄付先は前年度より継続。
TOYO TIRE 株式会社	環境基金の内 1,200 万円分の寄付を担当。環境問題に携わる団体を公募の上、選考し助成する。1 団体上限 50 万円。申請団体数：29 団体 審査の結果 19 団体に助成。

(寄付先の詳細は、資料編 p.28 を参照)

## (2) 個人への支援 (奨学金プログラム)

### ■ 東京海上日動あんしん生命保険株式会社

2016 年度から、東京海上日動あんしん生命保険株式会社の創立 20 周年記念「東京海上日動あんしん生命 奨学金制度」および「東京海上日動あんしん生命 幼児教育支援制度」の公募、審査、給付金の配布を含む運営を支援しています。

#### 奨学金制度

疾病により保護者を失い、大学等への進学に経済的支援を必要とする人を対象に、年間 30 万円を支給する給付型の奨学金制度。2018 年度は、前年度までに給付が決まった奨学生 95 名に、計 2,850 万円を給付。また、2018 年 7 月より募集を開始した 2019 年度奨学生 60 名が決定しました。

#### 幼児教育支援制度

未就学の遺児および一定の年齢の子どもで養育に経済的支援を必要とする人を対象に、株式会社ベネッセコーポレーションの「こどもちゃれんじ」を一定期間無償で提供する制度。毎年 30 名を募集しています。

## 物品寄贈「あげます・もらいます」事業

会員企業から物品などのご提供を受け、必要とするNPOへ橋渡しする「あげます・もらいます」事業を行っています。2018年度は、のべ11社からの提供品を、のべ54団体へ寄贈しました。

2018年度寄贈企業と物品一覧

企業 (50音順)	寄贈物品
株式会社J-オイルミルズ	オイルギフトセット
ジョンソン・エンド・ジョンソングループ	音声会議システム、文具、中古カメラ
三菱地所レジデンス株式会社	防災毛布・文具
三菱重工業株式会社	形状記憶食器
楽天株式会社	サッカーボール

(注：掲載を承諾された案件のみ)

## 助成事業

### ■ 田辺三菱製薬株式会社

「手のひらパートナープログラム」は、2018年度に7期目を迎え、331の特定疾患を対象に公募。難病患者団体およびその支援団体に対し、合計19団体に総額1,000万円を助成しました。助成プログラムの設計・公募・審査を含む運営を支援しています。

### ■ 日本たばこ産業株式会社

地域コミュニティ再生と活性化に取り組むNPO助成事業の第一次書類審査を実施。

## 次世代育成

### ■ 敷島製パン株式会社

2018年6月、「国産小麦ゆめちから栽培研究プログラム」の一環で、刈谷工場見学が行われ、当協会が食料自給率を考えるワークショップを企画・ファシリテートしました。浜松日体中・高等学校、静岡県立富岳館高等学校、名古屋経済大学高蔵高等学校の生徒が参加しました。

### ■ 日本製紙株式会社

日本製紙管沼社有林（群馬県利根郡片品村）で小学生親子を対象に行う環境教育プログラムです。2018年度は9月22日（土）・23日（日）に実施。12家族30名が参加しました。

## 社員研修支援

### ■ 東京海上日動火災保険株式会社

2018年度新入社員212名（グローバルコース採用）プラス370名（エリアコース採用）の新入社員研修について全国11地域での研修プログラムを作成。2018年4月16日～20日に実施。

## 環境保全

### ■ 東京ガス株式会社

同社が2017年度より実施する、森、里山、海、をつなぐ環境社会貢献活動「森里海つなぐプロジェクト」全体の実施支援をしています。有識者を含む運営委員会を設置し、審議をしながらプロジェクトを推進。2018年度は、都内中学生による山村での「きき書き」プロジェクトへの支援に加えて、東京湾のアマモ場の再生活動に、グループ社員とその家族が参加して貢献活動を実施しました。また、活動に賛同した顧客のポイント寄付による参加を得て、地域で環境保全活動をする団体を支援しました。



アマモ場の再生活動

## 高齢者支援

### ■ 王子ネピア株式会社

業務用大人オムツ等の売上の一部による支援で、全国の介護施設において、全日本おむつ団と称する東西 10 名の落語家による演芸会「ボランティア演芸会」を開催。当協会はその実施をサポートし、2018 年度は 80 回開催しました。

## サイト構築支援

### ■ フィリップ モリス ジャパン合同会社

西日本豪雨災害被災地への義援金の申込受付サイトを当協会にて構築し、運営支援。

## NPO のリーダー育成

アメリカン・エクスプレス財団の助成を受けて「アメリカン・エクスプレス・リーダーシップ・アカデミー～NPO リーダーのためのリーダーシップ育成プログラム～」を実施。卒業生は第 10 期までの累計で 373 名になりました。総合監修は、米倉 誠一郎 氏（一橋大学イノベーション研究センター 特任教授、法政大学大学院 イノベーション・マネジメント研究科教授、一橋大学名誉教授）。

### アメリカン・エクスプレス・リーダーシップ・アカデミー実施

第 10 期：2018 年 5 月（福岡開催）

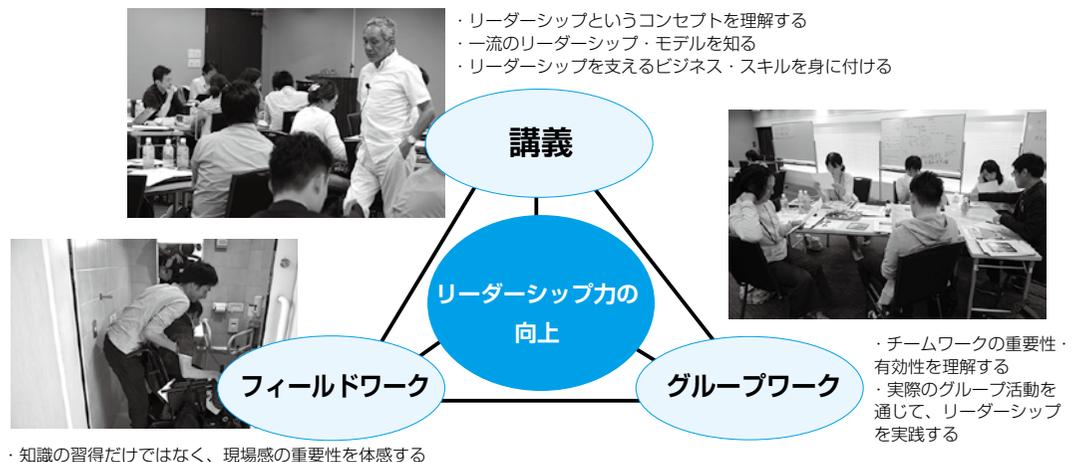
### フォローアップ・セッション実施

アカデミー実施後、参加者が学びを持ち帰り、現場で活用した後に再び参集して学びを深める。

第 10 期：2018 年 9 月（東京開催）・11 月（福岡開催）

### カリキュラムの構成と狙い

※写真は 2018 年度のアカデミーより



### アメリカン・エクスプレス・アカデミー 10 周年記念プログラム開催（2019 年 3 月 15 日）

アメリカン・エクスプレス・リーダーシップ・アカデミー及びアメリカン・エクスプレス・サービスアカデミー卒業生ほか 129 名が参加。コミュニティ・キャピタルの可能性についての米倉誠一郎先生の講義を始め、卒業生が実施している地域での好事例の紹介と、参加者同士のグループディスカッションを実施しました。

（日本財団ビルにて）



## 海外支援

### ■「SAVE SOAP プロジェクト」アンファー株式会社

創立 30 周年記念事業として、新たに開発した蚊よけ成分を含んだ石鹸を、日本国内での売り上げに応じてカンボジアで母子衛生教育とともに配布しました。

カンボジアでの教育プログラムと配布に関しては「認定特定非営利活動法人 シェア＝国際保健協力市民の会」と協働。石鹸配布の補助として、洗うと絵が浮き上がる絵本をアンファー社が作成。2018 年 5 月からカンボジア北部のプレアビヒアにて本格配布スタート。2019 年 3 月末までに 2,451 個の石鹸を乳幼児・妊産婦の衛生・栄養状態の改善及び感染予防の活動とともに配布しました。

## 東日本大震災の被災地支援

### 復興応援 キリン絆プロジェクト

キリングループが東日本大震災の復興支援として 2011 年から取り組んできた「復興応援 キリン絆プロジェクト」において、当協会は農業支援をサポートしてきました。

助成事業においては、2018 年度には福島県のワイン用のぶどうの生産者育成プロジェクトが成果報告会を実施。助成事業と平行して 2013 年から取り組んできた農業の次世代リーダー育成「東北復興・農業トレーニングセンタープロジェクト」は、その知見を活かして始まった「地域創生トレーニングセンタープロジェクト」と連携しながら実施しました。

### 東日本大震災復興支援 サントリー東北サンさんプロジェクト チャレンジド・スポーツ支援事業

サントリーホールディングス株式会社の東日本大震災復興支援「サントリー東北サンさんプロジェクト」の一環として、2014 年 9 月から、チャレンジド・アスリートの支援を当協会とともに実施しています。東北 3 県（岩手・宮城・福島）を対象に実施し、各県の行政担当者や障がい者スポーツ協会からのニーズの把握や、アスリートや競技団体とのネットワーク構築を当協会が担い、各プロジェクトの発展に努めています。

プログラム	内容
チャレンジド・アスリート奨励金	2018 年度は、24 団体、個人 50 名に奨励金を給付。
チャレンジド・スポーツアカデミー	障がい者スポーツに対する理解を深めるため「アスリート・ビジット」として、チャレンジド・アスリートなどが 3 県の学校を訪問し、子どもたちに対する講演や車椅子バスケットボール競技体験会を 7 回実施。2018 年度は岩手県の特別支援学校でのポッチャの体験授業も、新たに実施しました。 一般向けにも「チャレンジド・スポーツ体験教室」を岩手県で実施。6 つの競技体験とアスリートのトークショーを行いました。
チャレンジド・スポーツ育成サポート	障がい者スポーツ育成のため、車椅子スポーツ導入教室を、岩手県、宮城県で実施し、障がい者スポーツのすそ野拡大に向けた講座を実施。2017 年度まで指導を受けた受講生が、講師役として関わりはじめました。



卓球バレー体験



車椅子バスケットボール体験

# 次世代育成 事業

将来を担う子どもたちを対象に、寄付・募金活動を核とした社会貢献活動を推進し、自己肯定感の獲得、思いやりの心の醸成、事業成果の検証などを通し、人間としての成長支援、コミュニティへの参画意識の向上などととも、寄付文化の醸成を目指します。

## チャリティーチャレンジ・プログラム (助成：公益財団法人 JKA)

募金・寄付を核とした社会貢献学習「チャリティーチャレンジ・プログラム」は、子どもたちが解決したい課題を話し合い、募金活動をして、社会に役立つ寄付をする社会貢献学習プログラムです。「募金・寄付」活動を通して地域社会を見つめ、さまざまな人とかかわる中で、自己肯定感を高め、実社会での「生きる力」を育みます。

2018年度は、公益財団法人 JKA の助成を受けて、「企業と学校の連携」をテーマとした、以下の事業を行いました。

### 概要

- (1) 推進委員会の開催
- (2) 学校・地域でのプログラム実施支援  
 東京都杉並区立杉並和泉学園  
 東京都江東区立深川第二中学校  
 大阪府高槻市立赤大路小学校  
 福岡県福岡市立堅粕小学校  
 一般社団法人タウンスペース WAKWAK
- (3) 「企業と学校の連携」を基本的なテーマとしたセミナーの開催  
 ・東京セミナー 2018年12月2日(日)  
 ・大阪セミナー 2018年12月22日(土)  
 ・石巻セミナー 2019年1月26日(土)
- (4) 合同報告会  
 「学校教育における子どもたちの社会貢献活動の意義と課題」開催  
 2019年3月10日(日)
- (5) 報告書の作成  
 『子どもが変わる 学校が変わる 地域が変わる  
 子どもを主役とした地域共生型社会づくりの実践 ～学校・企業連携の可能性～』



募金活動の様子

### 【プログラムに参加した教師からの声】

「生徒たちが自分たちのクラスという狭い世界から外に目が向き、クラウドファンディングなどにも興味を持つようになり、この活動が社会との接点になったと思います。社会に対して何か働きかけができるのではないかという気持ちが、生徒の中に育てられた気がしています。」

(杉並区立杉並和泉学園 齋藤 漢興先生)

# チャリティー・リレーマラソン

中学生による被災地復興支援活動であるチャリティー・リレーマラソン。7回目となる2018年度は、東北から4校、熊本から3校、東京から6校が参加しました。

マラソンイベントの前には、東北・熊本・東京参加校生徒による合同募金を実施。東日本大震災、熊本地震の被災地支援と共に直前に生じた西日本豪雨への支援を呼びかけました。そして、12月16日に東北・熊本各校の用途発表を行う報告会を開催。参加各校での活動の様子を映像にまとめ、用途報告会で発表しました。

8月末までに募金総額は1,814,778円となり、被災地からの参加各校に215,000円、西日本豪雨復興のため、(認定)特定非営利活動法人ハビタット協会、(認定)特定非営利活動法人難民を助ける会に計304,110円を寄付しました。



熟議の様子



都内各地での合同募金



伴走などで、多くの企業ボランティアが生徒を見守りました。

## <プログラム全体の流れ>



## 参加校

### 【東北4校】

- 宮城県大崎市立古川中学校
- 宮城県仙台二華中学校
- 東北学院中学校
- 福島県いわき市立平第三中学校

### 【熊本3校】

- 高森町立高森中学校
- 高森町立高森東学園義務教育学校
- 御船町立御船中学校

### 【東京7校】

- 中央区立銀座中学校
- 墨田区立両国中学校
- 江東区立有明中学校
- 江東区立深川第二中学校
- 東京学芸大学附属国際中等教育学校
- 八王子市立四谷中学校

## 特別協賛：

EY新日本有限責任監査法人

## 協賛：

トヨタ自動車株式会社、華為技術日本株式会社、三菱地所株式会社、ロート製薬株式会社

## 特別協力：

パナソニック株式会社

## Tシャツ提供：

東洋アルミニウム株式会社

## 飲料提供：

サントリーホールディングス株式会社



マラソン後の記念撮影

## “子どもの『貧・困』” 伴走者育成研修 (助成：独立行政法人 福祉医療機構)

「企業等で働く一般の社会人が子どもの貧・困という社会課題の支援に動き出す」ことを目的とし、実際に困難を抱えた子どもの支援をする現場体験を含む研修プログラムとシンポジウムを実施しました。

### (1) 研修プログラム

見えにくい子どもの貧困の現状を受講生に実感してもらうことを重点課題として、なぜ今、子どもの貧困が社会課題となっているのか、その背景や現状を学習し、その後、困難を抱えた子どものいる現場で実態を確認。現場体験を踏まえ、企業人が社会課題に関わることを意味を改めて確認するという研修を、講義3回、ワークショップ2回、現場体験2か所以上(子ども食堂とそれ以外に各1か所以上)という構成で実施しました。



	開催月	内容
第1回	2018年10月	現状の理解1ー子どもの『貧・困』の現状の理解～現場体験に向けての準備(座学)
第2回	2018年11月	現状の理解2(兼)現場見学ー支援現場の現状～支援現場見学とスタッフを交えたセッション
第3回	2018年12月	課題・解決策・具体的支援案の整理(ワークショップ)
第4回	2019年1月	企業で働く個人が支援に参加する意味を確認するー武器としてのアサーション～幸福学(座学)
第5回	2019年2月	活動計画立案(ワークショップ)
現場体験	2018年10月から12月	地域：葛飾区、文京区、渋谷区、横浜市港北区など タイプ：子ども食堂、学習支援、生活支援、居場所支援など

### 【研修受講者の声】

講師陣の幅が広く、非常に総合的に理解・思考・知識を深めることができた。  
実際の現場を訪れる機会、子どもと接する際のスタンスなど、多面的な構成でした。  
同じ気持ちを持つ同士の話を聞いて勇気づけられました。  
貧困の現状を知らない人にどう伝えるか、巻き込んでいくか、その難しさを痛感。

### (2) シンポジウム

研修で実施した現場体験をシンポジウムの場で疑似体験していただき、子どもの貧・困の現実をシンポジウム参加者にも知っていただくことを目的に実施。参加者からは、「初めて触れる世界でした。今、自分にできることを！！と強く思います」「現場のリアルな状況が伝わってきました」というコメントが寄せられました。



シンポジウムの様子

### (3) 子どもの『貧・困』 伴走者育成研修テキスト作成

講義内容をテキストにまとめました。(参照：P7 出版物)

#### 【本プロジェクトの企画検討のためにご参加いただいた委員】

- 相川 良子氏 (特定非営利活動法人ピアサポートネットしづや 理事長)
- 浦田 愛氏 (社会福祉法人文京区社会福祉協議会 地域福祉推進係 係長)
- 隅谷 理子氏 (大正大学心理社会学部臨床心理学科 専任講師 / 臨床心理士)
- 田中 康之氏 (株式会社リンクアンドモチベーション 研修講師)
- 前野 隆司氏 (慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 教授)
- 松田 雄年氏 (社会福祉法人東京家庭学校 校長)
- 幸重 忠孝氏 (特定非営利活動法人こどもソーシャルワークセンター 代表 / 社会福祉士) (50音順)

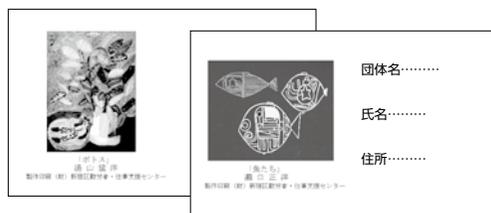
# 共生社会づくり 推進事業

一人ひとりの社会参加が健全な民主主義の原点になると考え、企業フィランソロピー事業においても従業員など企業のステークホルダーの社会参加・社会貢献の推進を心がけています。

一人ひとりの市民が社会を創る一員として、主体的に社会参加・社会貢献をするフィランソロピー社会の実現を目指して、今後も個人フィランソロピーの推進をしていきます。

## フィランソロピー名刺

障がいや難病などハンディキャップのあるアーティストの作品を利用した名刺を制作・販売しています。名刺の受注で得た収益を、アーティストや所属団体に還元します。名刺の印刷も福祉作業施設に委託し、プロジェクト全体で障がい者の可能性と魅力を示しつつ、経済的自立の支援につなげています。



(アーティストの作品の一例)

2018 年度末 作品数：114 作品  
2018 年度 制作件数：308 件 (1 件/100 枚)



『コザクラインコのよもぎちゃん』  
(アトリエ素心居) 石橋みゆき作



『おでん』(一般社団法人障がい者アート協会)  
【アートの輪】 Takeshi 作



『希望の一本松』田崎飛鳥作



『はい! 笑顔』たけ作  
(パイロットスペシャルアート)



『プラットフォーム』(アトリエ素心居) 浅井栄二作



『小鳥』瀬口正洋作



『ワーイ、ワーイ、ワーイ』  
TOM作

### 【作品ご提供者の声】

一般社団法人障がい者アート協会 代表理事 熊本 豊敏 様

フィランソロピー名刺プロジェクトには、当協会が管理運営しております障がいのある人々のアート作品に特化したオンラインギャラリー【アートの輪】より約 30 点の作品を提供させていただいています。掲載されている作家の皆様が喜ばれていることから、制作に携わる多くの障がい者に経済的対価や精神的満足感を与え、且つそのアート活動を効果的に周知していくこのプロジェクトを今後も応援してまいります。



◆ 注文方法：協会ウェブサイトの「作品カタログ」から作品をお選びいただきお申込みください。  
<https://www.philanthropy.or.jp/meishi/>

## 寄付川柳

2018年11月から2019年1月にかけて、日本社会に寄付文化を醸成することを目的に、「第三回寄付川柳」を募集しました。「寄付」にまつわるやさしさとユーモアにあふれる川柳1,567句が、最年少4歳から最高齢94歳までの852名から寄せられました。

受賞作		受賞者
最優秀賞	役に立て ぼくのわずかな おこづかい	矢作 元希 (16歳)
優秀賞	天井を 親子にかえて レジ募金	太田 堯子 (72歳)
優秀賞	入れたとき ミスに気づいた 諭吉ゆく	さくら太郎 (14歳)
佳作	教室へ そよ風送れ この寄金	南 信 (94歳)
佳作	できること なんもないから せめて寄付	坂梨和江 (65歳)
佳作	女房とは 募金手伝い キッカケで	パリっ子 (56歳)
佳作	髪切った 失恋じゃない 寄付したの	入り江わに (55歳)
佳作	ありがとう 今の私に 出来ること	はな (42歳)
佳作	人見知り でも出来る今 ネット募金	青我奈袖 (35歳)
佳作	映(ば) えすとも みんなでやれば 流行に	松本 理史 (16歳)
佳作	募金箱 細い穴から 君を見る	夜明 俊介 (16歳)
佳作	立ち止まる 足の数だけ 救われる	木村 友哉 (16歳)
佳作	新年号 今年はぼくの 寄付元年	齋藤 光起 (13歳)

### ●●● 最優秀賞受賞者の声 ●●●

東京都 巣鴨高等学校 矢作 元希さん (16歳)

「役に立つ」ではなく「役に立て」とすることで、より力強さを込めました。「わずかな」というフレーズには二つの意味を持たせています。一つは、大人と比べると自分の持っているお金はわずかであるということと、もう一つは買い物をしたときに受け取るおつりのこと。そのようなわずかなお金でも、集まることで救える人がいるのではないかと考えました。



【選者 コピーライター、川柳家 水野 タケシ 氏】※選評より抜粋

すそ野広ければ、山高し。去年の4倍を超える投稿があっただけに、大変質の高い句が揃いました。選者冥利に尽きます。最優秀賞は満場一致で即決した16歳、矢作元希さんの作品でした。文芸も話芸と同じで「つかみ」が大切。上五(五七五の初めの五)の「役に立て」という勢いのある命令形がお見事。熱い想いがこちらにまでストレートに伝わってきます。上五が「役に立つ」では、この迫力は生まれません。ひらがなを多用してみずみずしさを表現、短詩文芸に欠かせない暗唱性にも優れていて、大変完成度の高い一句です。

## 誕生日寄付

1998年に、社会的な課題解決のために寄付をした人を顕彰する「まちかどのフィランソロピスト賞」を創設し、2017年に20回を迎えました。20回目の特別賞の受賞者は、日本サッカー協会 相談役の川淵三郎さん。川淵さんは、25年以上、ご自分の誕生日に寄付をしておられました。これにヒントを得て、同賞は2017年に終了し、寄付行動をより具体的にサポートすることを目的に、誕生日に寄付をするためのプラットフォームを創設。誰にも平等にあるいのちを授かった日＝「誕生日」に、いのちに感謝し、それを寄付という形で表す習慣を広げていきます。

専用サイト：<https://www.birthday-donation.jp/>

### 【寄付先について】

本サイトを通じて行う寄付は、「子どもたちの今を支え、未来に投資する」をコンセプトに、スタート時は、「困難を抱える青少年への支援」に特化。陽の当たりにくい分野に関心をもってもらい、彼らを支援すると同時に、次世代を担う彼らが、健全な市民へと成長することをサポートします。寄付金は、審査委員会にて審議・決定した各カテゴリの団体（複数）へ届けます。



2019年1月22日（火）学士会館にてキックオフの記者会見  
高橋陽子（公益社団法人日本フィランソロピー協会理事長：左）  
村木厚子（同協会理事、元・厚生労働事務次官：右）

#### ①生きるを支える

虐待や家庭崩壊などにより、現実から逃げてきた子、風俗産業や暴力団に頼らざるを得ない子、もう一度、人生をやり直したい子どもたちを守り、支える活動分野。

一般社団法人 若草プロジェクト  
社会福祉法人 カリヨン子どもセンター

#### ②学びを支える

貧困や家庭環境の悪化などから学習機会を奪われ、学習意欲を失った子、貧困から中学校もまともに行けていない大人の学び直しなど、学習支援を中心にした活動。

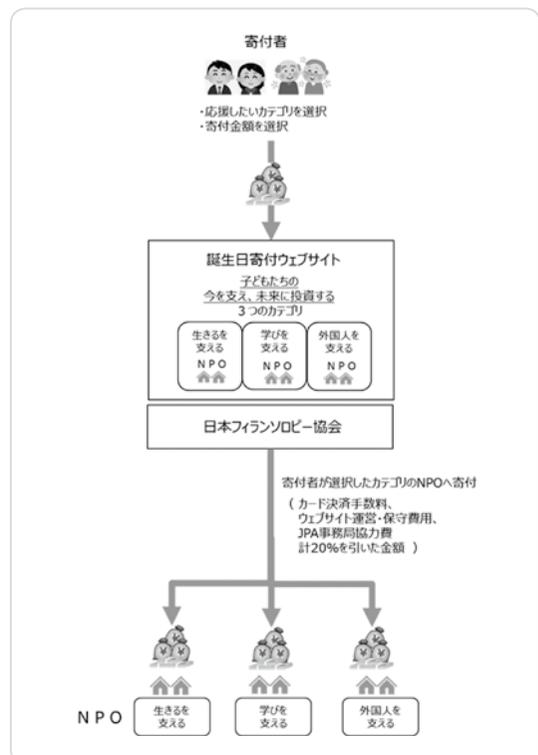
福島に公立夜間中学をつくる会（任意団体）  
一般社団法人岡山に夜間中学校をつくる会

#### ③外国人を支える

いじめ、非行、引きこもり、親からの虐待などにより苦しんでいる海外にルーツを持つ子どもたちの居場所づくりや学習支援などの活動。

特定非営利活動法人  
大泉国際教育技術普及センター  
NPO法人 青少年自立援助センター  
YSC グローバル・スクール

### 寄付の流れ



## 職員紹介

入職して早くも1年余り、これまでとは全く異なる景色に触れ、自身の人生観にも微妙な変化を感じる今日この頃です。企業や行政の手の届かないニッチな部分にもきめ細かく、丁寧に気を配り、日々丸となり、仕事に取り組む職員の姿に心から敬意を表しています。

(倉光恭三・常務理事)

\*\*\*

社員ボランティアプログラムや子どもたちのシズンシッププログラム、被災地への寄付プログラムを担当しています。私たち一人ひとりの力を社会のために活かすことのできる機会の創出と、そのための環境づくりを進めていきたいと考えています。(藤川祥子)

\*\*\*

皆が平穏に暮らしているように見える私たちの日常の中に、困難を抱えた子どもたちがいます。この見えない社会課題を、どうやって知っていただき、そして関わりを持っていただけるようになるか、企業の皆様のお知恵を借りながら考えていきたいと思っています。

(御代田理恵子)

\*\*\*

メーカーを早期退職し、IT系ベンチャーを経て、2018年10月より当協会へ入職しました。「誕生日寄付」他、主に新規事業を担当します。頭も身体も適度に老化してゆく中(笑)、“人生100年”後半の幸せな働き方を開発？したいと思っています。(畠山礼光)

\*\*\*

定例セミナー、経営者セミナー、リーダーシップ研修事業等を担当しています。2019年4月に入職し、まだまだ勉強中ですが、社会貢献という新しい分野で、学ぶことが沢山あり刺激的な毎日です。いろんな社会問題に直に接して、自分にできることを見つけたいと思っています。自然が大好きなので特に環境系に興味あり。

(藤原美樹)

\*\*\*

現在、協会でアルバイトをしています。

知らないことがたくさんありますが、覚えていき、少しでも力になれるように頑張っています。(村井大士)

入職以来毎月のように東北に行っています。沿岸部の街の整備は少しずつ進んではいますが復興はまだまだまだ様々な支援が必要です。特にこれから大人になっていく次世代のために、一緒にできるような機会を作っていきたいと思います。(青木高)

\*\*\*

現代と未来を見据えて「今」できることをするのがフィランソロピーの仕事と思っています。出会った人、コトから学び、成長できる自分でありたいと思います。個人的には日本史と古い建築物と子どもが大好き!「好き」から始まる楽しい活動を考えてみませんか?(宮本栄)

\*\*\*

2011年8月に入職以来、経理、総務を担当しています。忙しい毎日ですが、昼休みに皆でお弁当を食べながら、とりとめのない会話を…その時間がとても大切だと感じています。島根県隠岐の島出身。目を閉じればどこにいても、故郷の海を見ることが出来ます。

(谷村節子)

\*\*\*

企業の寄付を非営利団体に繋いだり、助成金の審査などの仕事を主に担当しています。企業やその社員の方々が社会の一員として責任を果たすお手伝いをするとともに、非営利団体による社会課題の解決と、団体の基盤整備や能力開発にお役に立てればと思っています。

(内田陽子)

\*\*\*

機関誌を編集しています。社会貢献の世界に飛び込んで、2016年6月号から担当、特集テーマに沿って自身も学んでいます。インタビューや事例取材で、多様な世界の素晴らしい方々に会えて、お話をうかがえることが何よりも役得。シニアになっても、毎日が発見です。

(近藤尚子)



## 機関誌(2015年度から2017年度までの発行内容)

月/No.	特集テーマ	巻頭インタビュー	
<b>2015年度</b>			
4月号 No.367	第12回企業フィランソロピー大賞 第17回まちかどのフィランソロピスト賞	—	—
6月号 No.368	いつでもだれでもチャレンジできる社会を	元受刑者に心の羅針盤を授ける「職の親」	中井 政嗣 氏 (千房株式会社 代表取締役)
8月号 No.369	人間を幸せにするロボットの実像	ロボットと一緒に築く人間の幸福とは	前野 隆司 氏 (慶應義塾大学大学院システム・デザインマネジメント研究科委員長 / 教授)
10月号 No.370	「お・も・て・な・し」を超えるホスピタリティの本質を考える	お客様目線から生まれる日本一小さな航空会社の魅力	吉村 孝司 氏 (天草エアライン株式会社 代表取締役社長)
12月号 No.371	寄付のススメー寄付月間スタートに寄せて	途絶えていた寄付文化を再び取り戻す好機	小宮山 宏 氏 (株式会社三菱総合研究所 理事長 / 寄付月間推進委員会 委員長)
2月号 No.372	障がい者スポーツに見るフェアプレーの本質	長崎から世界の舞台へ 高校生アスリートの挑戦	車椅子バスケットボール選手 鳥海 連志 氏
<b>2016年度</b>			
4月号 No.373	第13回企業フィランソロピー大賞 第18回まちかどのフィランソロピスト賞	—	—
6月号 No.374	フィランソロピーの温故知新 熊本地震の支援、いまこれから	「企業市民」と「ボランティア」の姿をたどりながら、今後のフィランソロピーの在り方を考える	松岡 紀雄 氏 (神奈川大学名誉教授) 早瀬 昇 氏 (日本NPOセンター 代表理事)
8月号 No.375	進化するCSVの未来を考える	企業と社会の新しい関係 循環型経済に挑む	山田 邦雄 氏 (ロート製薬株式会社 代表取締役会長 兼 CEO)
10月号 No.376	これからの多様なボランティアの役割と可能性を探る	ボランティアに捧げた半世紀の軌跡	喜谷 昌代 氏 (英国赤十字評議員)
12月号 No.377	寄付に託すもの～寄付月間に寄せて	「利他のリターン」を通してより幸せな人生を築いていこう	岡本 和久 氏 (I-O ウェルス・アドバイザーズ株式会社 代表取締役社長)
2月号 No.378	未来の幸せを創るため、今、何をすべきか	研究者として関与した、四十年の公益の軌跡	雨宮 孝子 氏 (前公益認定等委員会委員)
<b>2017年度</b>			
4月号 No.379	企業の社会貢献を牽引する社員の力	組織の横糸を紡ぐ社員のボランティア活動	東 和浩 氏 (株式会社りそなホールディングス 取締役兼代表執行役社長)
6月号 No.380	ディーブエシカルのすすめ	サバイバルをかけたエシカルとは	山本 良一 氏 (日本エシカル推進協議会代表 会長)
8月号 No.381	社会に活かすシニアのちから	世のため人のため、 東奔西走する熟年の生きがい人生	谷川 洋 氏 (認定特定非営利活動法人 アジア教育友好協会 理事長)
10月号 No.382	健全な民主主義を育てる図書館の役割	民主主義の砦としての図書館	松岡 享子 氏 (公益財団法人東京子ども図書館 名誉理事長) 永井 伸和 氏 (株式会社今井書店グループ 代表取締役 会長)
12月号 No.383	社会を照らす「まちかどのフィランソロピストたち」	一人ひとりの想いを巻き込んだ 新しい寄付のかたち	川野 幸夫 氏 (株式会社ヤオコー 代表取締役 会長) 高橋 陽介 氏 (日本オラル株式会社 オペレーション 統括本部 ビジネスオペレーション本部 本部長)
2月号 No.384	女性の活躍 (114 位の意味を考える)	女性の活躍を社会に活かす	木全ミツ氏 (認定 NPO 法人 JKSK 女性の活力を社会の活力に 前会長・理事長)

## 定例セミナー（2016年度・2017年度の開催実績）

開催月	テーマ	講師
2016年度		
第318回(4月)	CSR基礎講座2016 第1回 「CSR経営に資する社会貢献の推進～社会の中での企業の役割～」	高橋 陽子 (公益社団法人日本フィランソピー協会 理事長)
第319回(5月)	CSR基礎講座2016 第2回 「企業の社会貢献活動を立ち上げ広めてきた経験からの示唆」	嶋田 実名子氏 (個人情報保護委員会委員、前 公益財団法人花王芸術・科学財団 常務理事)
第320回(6月)	CSR基礎講座2016 第3回 「CSR活動の土台となる理念の構築と社内を動かす仕組みづくり」	黒坂 三重氏 (楽天株式会社 執行役員 CSR 部長)
第317回(6月)	CSR基礎講座2016 第4回 「企業におけるCSR担当者の役割と期待されること」	金田 晃一氏 (武田薬品工業株式会社 コーポレート・コミュニケーションズ&パブリックアフェアーズ CSR ヘッド)
第321回(7月)	企業は、なぜCSRに取り組むのか ～欧州の先進企業の事例から考える～	下田屋 毅氏 (Sustainavision Ltd. (サステイナビジョン) 代表取締役)
第322回(9月)	「良心」による企業統治を考える～「良心」と「自利心」の双方を活かした経営とは～	田中一弘氏 (一橋大学 大学院商学研究科 教授)
第323回(10月)	福島県の障がい者スポーツ普及活動から企業のボランティア機会を考える	増子 恵美氏 (公益財団法人 福島県障がい者スポーツ協会 書記)
第324回(11月)	社員ボランティアの推進 ～先進的な取り組み企業事例と協働NPOからのヒント～	植木 陽子氏 (MSD株式会社 広報部門 企業広報 シニア・スペシャリスト) 佐藤 貴之氏 (株式会社 ジェーシービー 広報部 CSR 室 主事) 五十嵐 哲氏 (大日本印刷株式会社 CSR・環境安全部 CSR 推進チーム) 竹垣 英信氏 (NPO 法人森のライフスタイル研究所 遊撃隊員兼代表理事 所長)
第325回(12月)	誰もが求める人と人とのつながり～映画「隣(とな)る人」から人に寄り添う意味を考える～	映画:「隣る人」対談:「子どもに寄り添うということ」(話し手:児童養護施設 東京家庭学校 施設長 松田 雄年氏)
第326回(1月)	スポーツを通じての社会貢献活動と人材育成を考える	北澤 豪氏 (サッカー元日本代表 / (一社) 日本障がい者サッカー連盟会長 他)
第327回(2月)	社員参加型の社会貢献～社内募金・マッチングギフトにおける工夫～	伊藤 春香氏 (アメリカンファミリー生命保険会社 広報部 社会公共活動推進課長) 瓜生 振一郎氏 (三菱重工業株式会社 グループ戦略推進室 広報部 CSR グループ グループ長)
第328回(3月)	人材育成に資する社会貢献活動の端的的可能性	伊藤 佐和氏 (ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人 グループ 社会貢献委員会 マネジャー) 広瀬 雄樹氏 (積水ハウス株式会社 コーポレート・コミュニケーション部 CSR 室長)

※ 第317回(当初4月開催予定)は、講師のご都合により開催日を6月に変更しました。

2017年度		
第329回(4月)	CSR基礎講座Ⅰ 「社員参加による社会貢献活動の推進」	堀久美子氏 (UBS グループ コミュニティアフェアーズ エグゼクティブディレクター)
第330回(4月)	CSR基礎講座Ⅱ 「企業市民の原点から今後のCSRを考える」	松岡 紀雄氏 (神奈川大学 名誉教授)
第331回(5月)	CSR基礎講座Ⅲ 「良心による企業統治～渋沢栄一の経営哲学からの示唆」	田中一弘氏 (一橋大学 大学院商学研究科 教授)
第332回(6月)	CSR基礎講座Ⅳ 「社会貢献活動を立ち上げ、広めてきた経験からみる今後」	山ノ川 実夏氏 (三井住友海上火災保険株式会社 総務部 部長 地球環境・社会貢献室長)
第333回(6月)	CSR基礎講座Ⅴ 「CSRの最新トレンド～SDGs時代の企業責任」	関 正雄氏 (損害保険ジャパン/日本興亜株式会社 CSR 室 シニアアドバイザー)
第334回(7月)	「新時代における枠を超えた発想や生き方」	國田 圭作氏 (株式会社博報堂 行動デザイン研究所 所長)
第335回(9月)	「社員参加を促すための知恵と工夫を聞く」	山尾 ゆり氏 (フィリップモリス ジャパン/合同会社)、安川 彩氏 (三菱商事株式会社)
第336回(10月)	「刑務所出所者等の社会復帰支援と企業への期待」	大橋 哲氏 (法務省 大臣官房審議官 (矯正局担当))
第337回(11月)	「企業による教育支援の今後～出前講座を超えて～」	竹元 賢治氏 (インテル株式会社 インダストリー事業本部 教育事業開発推進担当部長)
第338回(12月)	「『少年と自転車』映画鑑賞と対談～里親について考えるタベ～」	坂本 洋子氏 (東京都小規模住居型児童養育事業「坂本ファミリー」管理者、 「里親ひろば [まいつぶ]」グループ代表)
第339回(1月)	「教育格差は正に取り組む企業とNPOの事例から、今後の課題を考える～共に生きる未来へ向けて～」	石井 貴基氏 (株式会社 薬 (アオイゼミ) 代表取締役)、 森山 崇恵氏 (認定NPO法人 3keys 代表)
第340回(2月)	「農福連携の最先端を学ぶ ～企業・農業者・障がい者/高齢者等のパートナーシップで地域再生を～」	濱田 健司氏 (全国農福連携推進協議会 会長)
第341回(3月)	「ESG投資の最新動向 ～SDGs時代に評価されるサステナブルな企業になるために～」	水口 剛氏 (高崎経済大学 経済学部 教授)

## 寄付推進プログラム（NPOへの支援）2018年度実績

寄付元企業	寄付先団体	寄付元企業	寄付先団体
アメリカン・エクスプレス・インターナショナル Inc	公益財団法人熊本YMCA	株式会社ジェーシービー	特定非営利活動法人じぶん未来クラブ 一般財団法人オーバーザレインボウ基金 公益社団法人チャンスフォーチルドレン 一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校 一般社団法人三陸駒舎 特定非営利活動法人 SET 特定非営利活動法人底上げ 特定非営利活動法人リアスの森応援隊 特定非営利活動法人熱気球運営機構 一般社団法人ボランティアステーション in 気仙沼 一般社団法人 Tsubomi (任意団体) 陸前高田市復興支援連絡会 特定非営利活動法人まあむたかた 特定非営利活動法人応援のしっぽ 特定非営利活動法人つながりデザインセンター・あすと長町 特定非営利活動法人大熊町ふるさと応援隊 特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ 一般社団法人こころスマイルプロジェクト 特定非営利活動法人ボラリス 特定非営利活動法人難民を助ける会 特定非営利活動法人岡山マインドこころ
株式会社 NTT データ	公益財団法人あすのぼ 特定非営利活動法人 ACE 特定非営利活動法人 ReBit		東京海上日動あんしん生命保険株式会社
株式会社かんぽ生命保険	特定非営利活動法人北海道森林ボランティア協会 特定非営利活動法人もりねっと北海道 特定非営利活動法人いわて森林再生研究会 特定非営利活動法人宮城県森林インストラクター協会 特定非営利活動法人白神ネイチャー協会 NPO 法人いわきの森に親しむ会 特定非営利活動法人穴塚の自然と歴史の会 特定非営利活動法人トチギ環境未来基地 特定非営利活動法人フォレストぐんま 21 特定非営利活動法人竹もりの里 特定非営利活動法人よこはま里山研究所 特定非営利活動法人 JUON (樹恩) NETWORK 特定非営利活動法人森のライフスタイル研究所 特定非営利活動法人里山クリーン新潟 特定非営利活動法人きんたろう倶楽部 特定非営利活動法人角間里山みらい 特定非営利活動法人しずおか環境教育研究会 特定非営利活動法人穂の国森づくりの会 特定非営利活動法人森林の風 特定非営利活動法人里山保全活動団体遊林会 特定非営利活動法人里山ねっと・あやべ NPO 法人森林ボランティアトモロス 特定非営利活動法人自然回復を試みる会・ピオトープ孟子 特定非営利活動法人もりふれ倶楽部 特定非営利活動法人フォレストフォービープル岡山 特定非営利活動法人もりメイト倶楽部 Hiroshima 特定非営利活動法人朝霧森林倶楽部 特定非営利活動法人山村塾 特定非営利活動法人おおむら里山村づくり委員会 特定非営利活動法人天明水の会 特定非営利活動法人アイラブリーン大分 特定非営利活動法人森と木の研究所 特定非営利活動法人おきなわグリーンネットワーク	TOYO TIRE 株式会社	任意団体 海洋環境防災調査研究会 任意団体 小千谷市の棚田を守る会 特定非営利活動法人 NPO クワガタ探検隊 特定非営利活動法人 公益のふるさと創り鶴岡 特定非営利活動法人 おおい環境保全フォーラム 特定非営利活動法人 棚田 LOVERs 特定非営利活動法人 すいた環境学習協会 任意団体 黒松内ぶなの森自然学校運営協議会 特定非営利活動法人 くまもと未来ネット 特定非営利活動法人 スパ・ランカ協会 特定非営利活動法人 里山倶楽部 特定非営利活動法人 エコ・コミュニケーションセンター 任意団体 高砂海浜公園海辺の保全集いの会 特定非営利活動法人 ニランジャンサワサンガ 特定非営利活動法人 R.I.La 特定非営利活動法人 小網代野外活動調整会議 特定非営利活動法人 SoELa 一般社団法人 BC-ROBOP 海岸工学会 一般社団法人 モザンビークのいのちをつなぐ会

寄付元企業	寄付先団体	寄付元企業	寄付先団体
株式会社ファンケル	公益財団法人みちのく未来基金	明治安田生命保険相互会社 (チャリティーコンサートでの募金)	国立研究開発法人国立成育医療研究センター (もみじの家)
	社会福祉法人北翔会医療福祉センター 札幌あゆみの園		特定非営利活動法人地球環境市民会議
	社会福祉法人愛泉会 障害者支援施設 向陽園		特定非営利活動法人おはなしころりん
	社会福祉法人アルムの森		特定非営利活動法人未来図書館
	社会福祉法人訪問の家		特定非営利活動法人こども∞感ばにー
	社会福祉法人のぞみの家福祉会		特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ
	特定非営利活動法人じゅうしん神戸 じゅうしん須磨寺		特定非営利活動法人寺子屋方丈舎
	社会福祉法人島根整肢学園西部島根医療福祉センター		特定非営利活動法人りょうぜん里山がっこう
	社会福祉法人池田博愛会 障害者支援施設 箸蔵山荘		一般社団法人栃木県若年者支援機構
	特定非営利活動法人 NEXTEP		(社会貢献活動基金)
社会福祉法人すぎのこ村いきいきランド	NPO 法人シエきりり		
株式会社三井住友銀行 ボランティア基金 (テーマ選出)	特定非営利活動法人自然環境復元協会	個人 1 名	特定非営利活動法人普通の暮らし研究所
	特定非営利活動法人青少年自立援助センター		特定非営利活動法人 LGBT の家族と友人をつなぐ会
	NPO 法人ホスピタル・プレイ協会		遊び場を考える会 (任意団体)
	すべての子どもの遊びと支援を考える会		特定非営利活動法人歩
	特定非営利活動法人 NPO 昭和		どんぐり王国
	認定特定非営利活動法人ひこばえ		災害 NPO なみの (任意団体)
	特定非営利活動法人 Light Ring.		すくすく朝倉の未来隊! (任意団体)
	特定非営利活動法人子どもセンターてんぼ		沖縄県就学援助児童支援 NPO 法人エンカレッジ
	特定非営利活動法人再非行防止サポートセンター愛知		お金で学ぶさんすう
	特定非営利活動法人加茂女		
一般社団法人 new-look			
特定非営利活動法人チャイルド・リソース・センター			
特定非営利活動法人岡山マインド「こころ」			
特定非営利活動法人にじいる CAP			
特定非営利活動法人 WE21 ジャパン			
特定非営利活動法人国際地雷処理・地域復興支援の会			
特定非営利活動法人地球の木			
特定非営利活動法人日本マンマー豊友会			
特定非営利活動法人エイズ孤児支援 NGO・PLAS			
(社員ボランティア 先から選出)	社会福祉法人東京栄和会 (一番町高齢者在宅サービスセンター)		
	特定非営利活動法人ワーカーズ・コレクティブオーリーブ		
	特定非営利活動法人山の自然学クラブ		
	社会福祉法人啓光福祉会 (啓光学園)		
	特定非営利活動法人聴覚障害教育支援大塚クラブ		
	特定非営利活動法人アジアの障害者活動を支援する会		
	特定非営利活動法人瓜生福祉会		
	公益社団法人シャンティ国際ボランティア会		
	特定非営利活動法人アスロン		

貸借対照表  
(2019年3月31日現在)

一般会計		(単位:円)		
科 目	当年度	前年度	増 減	
I 資産の部				
1. 流動資産				
現 金 預 金	38,711,784	22,336,845	16,374,939	
未 収 金	11,759,424	10,123,738	1,635,686	
前 払 費 用	1,621,174	4,237,827	△ 2,616,653	
立 替 金	278,650	194,290	84,360	
仮 払 金	150,000	0	150,000	
貯 蔵 品	333,812	246,181	87,631	
流動資産合計	52,854,844	37,138,881	15,715,963	
2. 固定資産				
(1) 基 本 財 産				
基本財産合計	0	0	0	
(2) 特 定 資 産				
役 員 退 任 慰 労 引 当 資 産	14,075,000	13,375,000	700,000	
職 員 退 職 給 付 引 当 資 産	4,666,000	4,340,360	325,640	
受 取 寄 付 金 資 産	131,874,993	113,122,957	18,752,036	
受 取 助 成 金 資 産	15,590,400	9,833,263	5,757,137	
普 及 啓 発 事 業 等 積 立 資 金	46,791,580	50,000,000	△ 3,208,420	
特定資産合計	212,997,973	190,671,580	22,326,393	
(3) そ の 他 固 定 資 産				
建 物 附 属 設 備	3,285	8,659	△ 5,374	
什 器 備 品	145,663	25	145,638	
ソ フ ト ウ ェ ア	3,118,316	1,387,501	1,730,815	
電 話 加 入 権	4	4	0	
その他固定資産合計	3,267,268	1,396,189	1,871,079	
固定資産合計	216,265,241	192,067,769	24,197,472	
資産合計	269,120,085	229,206,650	39,913,435	
II 負債の部				
1. 流動負債				
未 払 金	10,291,502	6,966,983	3,324,519	
前 受 金	9,946,194	6,043,333	3,902,861	
仮 受 金	500,000	0	500,000	
預 り 金	1,623,535	1,552,926	70,609	
未 払 消 費 税 等	2,359,400	1,540,100	819,300	
賞 与 引 当 金	2,571,500	2,541,500	30,000	
流動負債合計	27,292,131	18,644,842	8,647,289	
2. 固定負債				
役 員 退 任 慰 労 引 当 金	14,075,000	13,375,000	700,000	
職 員 退 職 給 付 引 当 金	4,666,000	4,340,360	325,640	
固定負債合計	18,741,000	17,715,360	1,025,640	
負債合計	46,033,131	36,360,202	9,672,929	
III 正味財産の部				
1. 指定正味財産				
指定正味財産合計	147,465,393	122,956,220	24,509,173	
(うち基本財産への充当額)	( 0 )	( 0 )	( 0 )	
(うち特定資産への充当額)	( 147,465,393 )	( 122,956,220 )	( 24,509,173 )	
2. 一般正味財産				
(うち基本財産への充当額)	( 0 )	( 0 )	( 0 )	
(うち特定資産への充当額)	( 46,791,580 )	( 50,000,000 )	( △ 3,208,420 )	
正味財産合計	223,086,954	192,846,448	30,240,506	
負債及び正味財産合計	269,120,085	229,206,650	39,913,435	

会員数の推移

	2013年度末	2014年度末	2015年度末	2016年度末	2017年度末	2018年度末
正会員(法人)	34	34	33	29	27	26
賛助会員(法人)	80	79	81	88	93	101
賛助会員(個人)	88	89	83	88	91	94

# 正味財産増減計算書

(2018年4月1日から2019年3月31日まで)

一般会計

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取員会費	22,955,200	22,962,000	△ 6,800
正会費	10,560,000	10,920,000	△ 360,000
助員受取会費	12,395,200	12,042,000	353,200
事業収益	94,604,640	61,806,544	32,798,096
1. 社会貢献啓発事業収益	252,838	267,858	△ 15,020
2. 社会貢献促進事業収益	93,304,285	60,720,876	32,583,409
3. 共生社会創造事業収益	1,047,517	817,810	229,707
受取助成金	25,235,278	19,782,368	5,452,910
受取寄付金	230,487,249	219,895,624	10,591,625
受雑収益	2,545	13,742	△ 11,197
受雑収益	2,545	2,742	△ 197
受雑収益	0	11,000	△ 11,000
経常収益計	373,284,912	324,460,278	48,824,634
(2) 経常費用			
事業費	355,909,043	322,563,312	33,345,731
(公1 社会貢献啓発事業費)	9,029,532	8,583,681	445,851
(公2 社会貢献促進事業費)	326,391,505	301,418,414	24,973,091
(公3 共生社会創造事業費)	18,778,771	11,936,738	6,842,033
(公益共通事業)	1,709,235	624,479	1,084,756
管理費	11,644,536	13,678,926	△ 2,034,390
経常費用計	367,553,579	336,242,238	31,311,341
当期経常増減額	5,731,333	△ 11,781,960	17,513,293
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
固定資産除却損	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	5,731,333	△ 11,781,960	17,513,293
一般正味財産期首残高	69,890,228	81,672,188	△ 11,781,960
一般正味財産期末残高	75,621,561	69,890,228	5,731,333
<b>II 指定正味財産増減の部</b>			
受取助成金	21,201,031	19,570,114	1,630,917
受取寄付金	234,235,131	215,130,132	19,104,999
一般正味財産へ振替	△ 230,926,989	△ 222,651,096	△ 8,275,893
当期指定正味財産増減額	24,509,173	12,049,150	12,460,023
指定正味財産期首残高	122,956,220	110,907,070	12,049,150
指定正味財産期末残高	147,465,393	122,956,220	24,509,173
<b>III 正味財産期末残高</b>	<b>223,086,954</b>	<b>192,846,448</b>	<b>30,240,506</b>

## 役員・顧問

会長	浅野 史郎	神奈川大学特別招聘教授／元・宮城県知事
副会長	田中 克人	東北福祉大学特任教授
●理事長	高橋 陽子	
●常務理事	倉光 恭三	
理事	井関 利明	慶應義塾大学名誉教授
理事	太田 達男	公益財団法人公益法人協会 会長
理事	木全 ミツ	認定特定非営利活動法人 JKSK 女性の活力を社会の活力に 前会長・理事長
理事	河野 通和	株式会社ほぼ日 取締役 ほぼ日の学校長
理事	佐藤 雄二郎	株式会社共同通信社 代表取締役社長
理事	長島 剛	多摩大学経営情報学部教授
理事	永田 俊一	三菱 UFJ 信託銀行 信託博物館 館長
理事	藤原 作弥	エッセイスト／元・日本銀行副総裁
理事	堀田 力	公益財団法人さわやか福祉財団 会長
理事	村木 厚子	元・厚生労働事務次官
理事	山崎 美貴子	東京ボランティア・市民活動センター所長
監事	奥川 貴弥	弁護士
監事	尾崎 輝郎	公認会計士
顧問	松岡 紀雄	神奈川大学 名誉教授

(●印は常勤、2019年7月1日現在)

## 2018年度 ANNUAL REPORT

---

2019年8月1日 発行

発 行：公益社団法人 日本フィランソロピー協会

〒100-0004 東京都千代田区大手町 2-2-1 新大手町ビル 244

TEL：03-5205-7580

FAX：03-5205-7585

URL：<https://www.philanthropy.or.jp>



(最寄駅)

- JR「東京駅」丸の内北口より徒歩5分
- 地下鉄「大手町駅」B3出口直結  
(東京メトロ丸ノ内線／千代田線／東西線／半蔵門線、都営地下鉄三田線)